

第3回評価制度の充実にに向けた方策に関する有識者会議 議事要旨

- 1 開催日時 令和7年6月24日（火曜日）10時30分から11時30分まで
- 2 開催場所 東京都庁第一本庁舎33階南側特別会議室S2（オンライン併用方式）
- 3 出席者 西出座長、池田委員、横内委員
後藤委員（オンライン）、中川委員（オンライン）（以上5名）

4 議題

- （1）第2回有識者会議における御意見について
- （2）評価制度の充実にに向けた検討の方向性について
 - ・資料3及び資料4により、事務局から説明

5 委員からの主な御意見

- （1）評価制度の充実にに向けた検討の方向性
 - ・資料で示されている「評価制度の充実にに向けた検討の方向性」は、制度の見直しにより目指す姿が明確になっていて、現状に照らして、良い方向性が導かれている。
 - ・「K P I の本格的導入」と「見直し・再構築の視点の強化」という目標について、事業評価は、事業の振り返りを行い、効果が出たかどうか、効果が出なかったものは次にどうしていくかという見直しの視点が重要であるので適切である。
 - ・設定目標については、より分かりやすくなるよう具体化を図ることや、活動目標以外にも成果を測れる目標がないかなど、中長期的に検討を進めていくと良い。

（2）取組内容

< K P I の設定 >

- ・限られたリソースの中で取り組むので、適切に対象とする事業をどういった観点で選んでいくのかがポイントになる。
- ・「見直し・再構築の視点の強化」という目標も踏まえ、効果が出なかった事業等を、K P I を用いて定量的に振り返ることで、今後の見直しにつなげていけると非常に良い。
- ・K P I が事業担当部署の適切な目標となるよう、目標を掲げ、その達成に向けて取組を行い、結果がどうだったのか、というサイクルを作ってもらいたい。また、目標は、単年度だけでなく、長期的な3年、5年等という単位で取り組むことが望ましい。

- ・ K P I の分かりやすさを向上させるため、設定した理由や根拠等を示すべき。
- ・ K P I について、無理に数量的に設定するというよりも、定性的でもいいので分かりやすい目標を設定した方が良い。

<成果重視の視点に基づく評価内容の充実>

- ・ 設定するアウトプット・アウトカムの妥当性を担保するため、最初に事業担当部署が設定する際の精度を高める方策を検討すべき。他自治体では、設定方法の考え方について明示しているところもある。

<公会計手法の一層の活用>

- ・ 都営住宅等で、貸借対照表と行政コスト計算書を基に、建物老朽化比率と行政収支比率を算出し分析しているが、ポイントを押さえており、分析を踏まえた方向性が記載されているので、分かりやすく良い事例だと思う。
- ・ 分析の充実に当たっては、使用料など受益者負担に着目した指標を設定するという観点もある。利用者一人当たりのコストなども非常に意味がある指標である。

<決算情報との連動>

- ・ 事業の実績を見るには予算だけでなく決算を見ることが重要であるため、決算と連動させるという取組は非常に良い。

<評価過程の見える化>

- ・ 評価判断に資する情報として、予算増減の理由を示すことは、都民に加え行政側の理解度も深まるので素晴らしい取組である。
- ・ 事業の実績を上げたため予算が増えたといった、結果との連動性を明確にする等、評価判断に資する定量的な実績等の情報を充実させることが必要である。
- ・ 記載内容と評価判断の間に矛盾がある場合や、選定理由が不明確な場合があるので、職員の共通理解を形成するためにも選定基準を作成した方が良い。

(3) その他

- ・ 見直しにより、事業評価へ様々な情報を付加していく形になると思うが、付加された情報は、事業部門や財政部門、そして都民に役立つ、信頼できる情報になっているかが非常に重要であり、活用されないような情報を作るようなことにはならないでほしい。

- ・見直しを進めるに当たり、できることは速やかに、かつ現実的に進めつつも、対応が難しい場合は、柔軟に取り組むべき。
- ・アウトカムの設定は非常に大事だが、個別の事業においては、アウトカムの設定が難しいものもあるため、様々な制約の中で、現実的かつ効果的に見直しを進めるべき。
- ・初めて見る方にも分かりやすいよう、評価の対象や評価プロセスなどを含めた、評価制度の全体像を示した方が良い。